

緑の風 NEWS

JR東労組



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2024年12月13日 No.65

南京大虐殺事件から87年

12月13日、旧日本軍が当時の中国の首都・南京を占領する際に約30万人を虐殺した「南京大虐殺事件」から87年を迎えました。日本の加害の歴史を象徴する事件です。

一部の報道や有識者からは「南京大虐殺は無かった」等の発言もありますが、歴史を正しく受け止め、過去の過ちを認めて反省する立場にならなければ、平和な社会をつくり出すことはできません。

◇東 史郎氏(南京大虐殺証言者) 南京のとある一家を襲った証言集 ～一部抜粋～

「両手を合わせ日本兵を拝む祖父は、二人の日本兵に芋のように突き刺され倒れた」

「あまりのことに思わず大声を出して泣き叫んだ娘は、日本兵に銃剣で突かれ血を吹いた」

「土間の隅に倒れて三歳の坊やの頭はザクロのように割れていた」

戦争は、人間が人間でなくなってしまうものであり、今も世界では、大勢の罪のない市民や子どもたちが犠牲となっています。一方で日本でも、戦争のできる国づくりに向けた動きが着実に進められていることを見逃してはなりません。

JR東労組は、1995年から現地を訪れて歴史の真実と平和の大切さを学ぶことができました。これからも「抵抗とヒューマニズム」を掲げて国際連帯をつくり出し、労働者や子どもたちの「命」を守るため、平和を求める運動を取り組んでいきます。



侵華日軍南京大虐殺草鞋峡遇难同胞纪念碑



南京大虐殺記念館

「命」を最大の価値基軸として平和な社会の実現に向けて連帯しよう!